

カルチュラル・ タイフーン 2013



「たまる? たまらん!」

今回が11回目となるカルチュラル・タイフーンは、2013年7月12日(金)~14日(日)の3日間にわたっておこなわれます。

その開催場所となる東京経済大学は、「多摩」と呼ばれる東京都西部の国分寺市に位置しています。

その地域には、佐藤文明が『未完の多摩共和国—新選組と民権の郷』(凱風社、2005年)で描いている、「権力の抑圧への民衆的な抵抗」という伝統と歴史があります。

今回のカルチュラル・タイフーンでは、「多摩」における「抑圧への抵抗」を彷彿させるかのような「たまる? たまらん!」「あきらめる? あきらめない!」「溜まる? 溜まらない!」「集まる、集まらない」などなどいろいろ含意できます)がキャッチコピーになっています。そして、そこに含まれるメッセージは、今回のカルチュラル・タイフーンの際になる5つのテーマと蜘蛛の巣状に交錯するのです。

アンチ・デジタル
時代の身体と
人文学の危機

「復興」への
違和感、そして直視
すべき問題

文化と政治
……音楽が
鳴り止むとき

NEXT WAVE CULTURE
ポスト資本主義下の
実践カルチュラル・
スタディーズ

抗うアジアの
表現と情動
オルタナティブな
(記憶—歴史)を
想像する

カルチュラル・ タイフーンとは何か?

カルチュラル・タイフーン——2003年からはじまった、アジアにおける最大規模のカルチュラル・スタディーズ・ギャザリングのひとつ。その特徴として、「開かれた、ボトムアップの、自由な精神を愛する人びとの集まり」であることが挙げられます。カルチュラル・タイフーンは、カルチュラル・スタディーズの研究者がそれぞれの研究を

報告する場であると同時に、さまざまな社会問題に取り組む活動家や表現者がそれぞれのアイデアを出し合い交流するための場でもあるのです。その意味で、カルチュラル・タイフーンは、〈理論/実践〉という対立軸を超えた、新しい〈知〉の形を作り出すための実験的な試み(=「現場」)なのです。

いま、カルチュラル・ タイフーンをやること

のちに「3.11」と呼ばれるようになった、東日本大震災が引き起こした「出来事」——地震と津波の被害、それにとまなう原子力発電所事故による危機的事態——を抜きにして、現在の日本における社会・政治・文化状況を考えることは不可能でしょう。そして、この「出来事」を境にして、「何が変わり、何が変わっていないのか」という評価については、注意深く検討を重ねる必要があります。もっとも、民主主義を求め、大衆的な運動の高まりがある一方で、この国における犠牲や排除の構造が問わ

れない限り、「何が変わり、何が変わっていないのか」を検証することはできません。いずれにしても、ポスト「3.11」の社会を生きるわたしたちが、デジタル化されたグローバル資本主義、抗うアジアの未来像、さらには表象的な民主主義の危機といった諸問題を無視できない状況に直面していることは間違いありません。今回のカルチュラル・タイフーンは、「抑圧への抵抗」の象徴的な場である「多摩」から、日本を、アジアを、さらには世界をまなざす「現場」になるはず

学術シンポジウム
 「(アンチ)・デジタル時代の身体と人文学」
 7月12日(金) 17:00～19:00
 東京経済大学 6号館7階大会議室
 (30分前より受付開始)

報告者：西垣通(東京経済大学)
 深山直子(東京経済大学)
 西山雄二(首都大学東京)

コメンテーター：大内裕和(中京大学)
 岩崎稔(東京外国語大学)

司会：成瀬都香(東京経済大学)
 本橋哲也(カルチュラル・タイフーン2013実行委員長、東京経済大学)

主催：東京経済大学学術研究センター
 *参加費無料
 終了後に懇親会を予定しています

関連企画
 カルチュラル・タイフーン 2013：
 たまる? たまらん!
 TAMARU? TAMARAN!
 2013年

7月13日(土)～14日(日)
 1日目：7月13日(土)
 10:30～18:30
 (30分前より受付開始)
 ※終了後、懇親会(有料で19:00～)

2日目：2013年7月14日(日)
 10:30～18:30
 (30分前より受付開始)



日時	教室	テーマ、報告者・コメンテーター	言語
13日	2号館 301	「復興」への違和感、そして直視すべき問題 ワークショップ 第一部報告者：北島敦之(原発作業員/元・東経大生) 「3.11以降の身体と心 山内明美(大正大学/宮城大学南三陸復興ステーション研究員) を編みなおすために」 荒木田岳(福島大学) 武藤類子(里山喫茶「燦」福島原発告訴団長)* 第二部報告者：鶴沼友恵(双葉町→埼玉県に避難中) 晴天時屋外、雨天時 B202(16:30～) 小河原律香(郡山市→山梨県に避難中) 司会：植松青児(Cultural Typhoon 2013 実行委員/印刷労働者)	日本語
		NEXT WAVE CULTURE ポスト資本主義下の実践カルチュラル・スタディーズ 報告者：増原裕子&東小雪(LGBT アクティヴィスト) GREEN LAB(スノーボーダー/オルタナティブ・エコロジスト) 討論者：田中東子(十文字学園女子大学) 司会：山本敦久(成城大学)	日本語
14日		文化と政治……音楽が鳴り止むとき 報告者：簡妙如(国立中正大学、台湾) 何東洪(輔仁大学、台湾) 磯部涼(音楽ライター) ネルソン・バビンコイ(ミュージシャン) コメンテーター：アンディ・ベネット(グリフィス大学、オーストラリア) 司会：宮入恭平(法政大学・カルチュラル・タイフーン 2013 事務局長)	日本語 英語

日時	教室	テーマ、報告者・コメンテーター	言語
14日	14:00 ～ 16:00	2号館 抗うアジアの表現と情動—オルタナティブな<記憶—歴史>を想像する 報告者：鈴木勝雄（東京国立近代美術館） 白凜（ペク・ルン）（東京大学大学院） 若林千代（沖縄大学） コメンテーター：佐藤泉（高山学院大学） 東琢磨（音楽・文化批評） 司会：戸邊秀明（東京経済大学）	日本語
	16:30 ～ 18:30	301 たまスタディーズ：国立編 報告者：高橋絢子（一橋大学） 高原太一（東京外国語大学） 桐朋中学・高校 社会部（中学3年生から高校3年生までの学生） 司会：田仲康博（国際基督教大学）	日本語



2号館	教室	テーマ、報告者・コメンテーター	司会	言語
13日 (Sat.) 14:00 ～ 16:00	101	現代日本における「若者」・「レジャー」・「幸福」 阿部勘一、小泉恭子、佐藤生実、小形道正、渡辺潤	小澤考人	日
	103	Gender, Politics, and Family Value: Reading Manga from Post-311 Perspectives. Ming Hung Tu, Hyojin Kim, Kotaro Nakagaki	Sugawa Shimada Akiko	英
	105	Alternate Media Worlds and Precarious Consumption After 3.11 Karlin, Jason G., Nico Sternsforff, Patrick W. Galbraith, Keiko Nishimura	David Slater	英
	203	New Media at a Crossroads: Digital future of Japan(Re)mediating Bodies and Crises in Popular/Visual Media. Choo, Kukhee, Suzuki, "CJ" Shige, Joshua Dale, Marie Thorsten	Suzuki,CJ	英
	204	Immigrating from South to North. The determinants of International Migration of Filipina Health Care. Workers to Japan – the Close Encounter of Zainichi and Rainichi Filipinos in Japan. Islam, Itaewon and Muslims and Koslms: Intercultural Dynamics of Islam Neighborhood in Seoul. Kouam Ngocka., Valérie Joëlle, Charytoniuk, Agnieszka, Nam, Jiyun Camilla	岩淵功一	日中
	302	スポーツナショナリズムの現在—東アジアの文脈から 報告者①：キム・ヒョンミン「韓国におけるスポーツナショナリズムの変容」 報告者②：川邊凱仁（「2012 ロンドン・オリンピックにおける『日本人』の表象化」） 報告者③：Chang-de Liu「Perspectives on the Alternative East Asia:Re-Imagining Border and Archipelago」 ディスカッサント：清水論	有元健	日中
16:30 ～ 18:30	101	音楽文化の実践—移民、若者の階級を越えるネットワーク歴史の再—想像から、「発展」の再—創造へ—アジアの伝統音楽の「内発的發展」を考える /Our Songs? Affective Existence of Rock and Roll in Taiwan-A Case Study of 1976 and Their Audience 辰巳遼 (J) 佐藤岳晶 (J)Wang Chun May (C)	東琢磨	日中
	103	「復興」と「疎開」のアポリアー福島におけるノモスの在り処をめぐって /The Heroes of 3.11: Analyzing JSDF Media Representation Post- 東日本大震災ポスト 3.11 における「風評被害」とは何か？ 藤崎剛人 (J)Yeo Yezi (E)Lee Fu Hsing (J)	吉見俊哉	日英
	105	「政治的情熱の放水路」の渦を読む—近代朝鮮文学における主体形成の諸側面 和田圭弘 影本剛	和田圭弘	日
	203	Disorienting Cosmetic Surgery Tourism. A Broken Sonho Lindo (Beautiful Dream): Japanese-Brazilian Return. Migrants' Voice on YouTube and an Online Message Board. Presenting Everyday life, the Exotic, and Transnational Romance on Social Media: The Affective Networks of Taiwanese Women Living in Japan and Korea. Holliday, RuthKomaki, RyutaHu, Kelly	阿部潔	英

2号館	教室	テーマ、報告者・コメンテーター	司会者	言語
16:30 ～	204	異郷を生きる出郷民(シランミン)たちの街と記憶 ——宮崎の沖縄・奄美タウン、波島をめぐる 渡邊英理 李陽 福居夏馬	渡邊英理	日 中
18:30	302	感情記憶の次元と東アジアの自画像 トリスταν・ブルネズー・イクリストファー・アンキム・ウネ	岩崎稔	日 英
葵陵会館	食堂	パーティ (大学教員 3000 円、一般・学生 1000 円)		

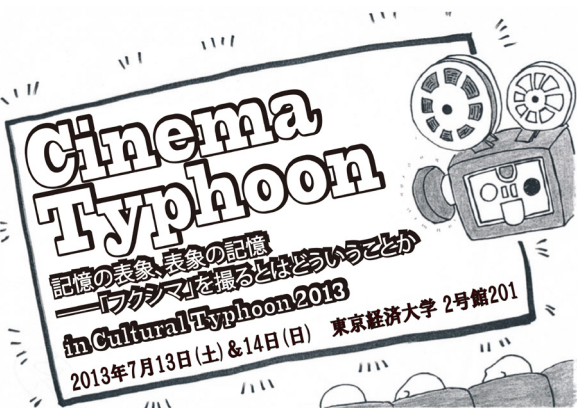


2号館	教室	テーマ、報告者・コメンテーター	司会者	言語
14日 (Sun.)	101	3.11「あの日」からの物語文化—「故郷／記憶／風景／表現」をめぐる対話 /How to Make Stories after 311: Reimagining Lost "Home/Memory/Landscape" 杉田このみ、志賀泉、山梨牧子、中垣恒太郎	杉田このみ	日
	103	移動の物語から考える——<あいだ>の行為主体 / Reading 'Diaspora' Narrative-Against New Racism and Global Poverty-- From Reconciliation to Appropriation: Chūgoku Zanryū Nihonjin. Weiss, Amanda D., Park, Jeongjun Sim, Jeongmyoung	ParkJeongjun	英
10:30 ～	105	Reframing Human Rights for an "Actionable" Cultural Studies. Democracy under siege? Systemic view of tele-mediated democracy in the case of Taiwan's political discussion programs. Post-capitalist subjectivity: theorizing beyond Uno Tsunehiro and Azuma Hiroki. Erni, John Nguyet Tang, Shih-che Howard, Christopher	鈴木慎一郎	英
12:30	203	暴力を共同想起＝記念する政治 / The Politics of Commemorating Violence 本多勝一と日本 70 年代における日中戦争言説—『中国の旅』を中心に / The 1970's history of a war between China and Japan - Honda Katsuchi's《Travels in China》as a perspective. Peng Shan Hao (C) 唐川恵美子 (J) 北田依利 (J) 包宝海 (J)	唐川恵美子	日 中
	204	邂逅と衝突の場としての沖縄——国境とフェンスの越え方 / Okinawa as sites of encounters and conflicts: Crossing national borders and fences. Cinematic Dispositif in Postwar Japan: Iwanami Productions and the Ontology of the Cinematic. 水俣病を周縁から考える / Multilateral thinking of Minamata disease Tsunoda Takuya (E) 吉田和彦 (J) 大野光明 (J) 中村葉子 (J)	大野光明	日 英
14:00 ～ 16:00	302	浮き立った夢は地方化を増殖させる——戦後東アジアにおける「民族」「平和」「発展」「祖国」 / Alluring Dreams Repeatedly Breed Local-Communes in a Fractal Way: "Nations", "Peace", "Development" and "Mother Countries" in East Asia after World War II 片岡佑介、番園寛也、佐喜真彩	申知瑛	日
	101	闘う百姓、革新自治、反基地闘争: 「叛乱」地域としての多摩 / Radical peasants, reformist autonomy and anti-base movements: Tama as a riot region. 小笠原博毅、山本敦久、向谷有加、高原太一	小笠原博毅	日
	103	Staying positive in the late-capitalist Japanese economy: The case of Japanese railway workers/ 日本の新しい貧困における言説構築とその対抗空間— 1990 年代以降の雑誌分析を中心に / discursive construct of new poverty and its counter publics - analysis on discourses on new poverty in Japan since 1990s. Locating the ethos-political: Courage, deliberation, and neoliberal democracy on edge. Contemporary Chinese art: the tension between a autocratic government and an emerging force of populism.	河合優子	英
	105	Asia Beyond Capitalism?: Popular Cultural Flows Across National Borders in Asia Tam Siu ManChow Shuk YeeSkutlin, John M.	Lo Ka Fung	英
	203	抗いの手前で——「アジア」への／からの脱出 Before Resistance - Flights into / from "Asia". ヤン、マニユエル 今津有梨、松田潤、吉田裕、西亮太	西亮太	日
204	「住めば都」!?——横浜・黄金町のジェントリフィケーションとヒップホップ / "Sumeba Miyako"!?——Gentrification and HIPHOP in Kogane-Cho, YOKOHAMA. ゴシックロリータにおける消費 / Consumption in Gothic and Lolita. 雑誌『明星』における読者たちの抵抗としての<ヤング>コミュニティ / Young' community as the resistance of readers in Myojo. 堀真悟、田島悠来、水野麗	成実弘至	日	

14:00 ~ 16:00	302	近代化する日本と内的他者への眼差し —慈善事業家・美術家・文学者による関係性の再創出 / Eyes on the "Others": Reconstruction of Japanese Relations with Outsiders in Modern Japan. 自衛隊協力映画で表象される「某国」のスパイ~『亡国のイーグリス』と『名探偵コナン 絶海の探偵 (プライベート・アイ)』の比較から / Asian Spies in the JSDF films: Comparing 'Aegis' with 'Detective Conan: Private Eye in the Distant Sea.' 須藤遙子、駒居幸、大石茜、篠原華子	齊藤愛	日
16:30 ~ 18:30	103	Appropriation of Asian Others in Contemporary South Korean Action Cinema. Popular Culture Complex: what resistance or subversion is there? . Being Global, Being Me: an analysis on youth travel discourses in Korea from the late 1980s. Choi JungBong, Bae Juyeon, Taylor SusanKim, Jiyeon	毛利嘉孝	英
	105	スタジオ・クーカの"芸術=労働":「もう一つの世界」をつくる一つの実践 / Art and Labor at "studio COOCA": Study on Creation of an "Another World". What does Occupy Central Mean? Rebooting Democracy: The Role of the Media in the Failure of the Occupy Movemen. 後藤吉彦、St. Louis, Christopher Joseph, Liu, Shih-Diing	富山一郎	英
	204	奄美の復帰 60年 -- なにが検証されてきたのかを問う 大橋愛由等 et.al	大橋愛由等	日



代表者	タイトル	場所/日時	内容
Nicola Liscutin	Representing Loss: The Ethics and Aesthetics of 'Fukushima' Related Documentary Films	シネマタイフーン参照 B201/13日、14日	映画
毛利嘉孝	「ラジオ・アリーチェ」の文化台風への帰還: 映画『ラジオ・アリーチェ』の日本初上映と自由ラジオをめぐるディスカッション	B206/14日 14:00~16:00	映画
毛利嘉孝	ラジオ・アリーチェ (Powered by 日本海賊放送)	葵陵会館 1F(F)	ラジオ
岩岡傑	HIBAKU - Marching at Fukushima Daiichi NPP	B206/13日 15:00~17:30	パフォーマンス
成瀬都香	演劇『性的な家族』	B202/13日 14:00~16:00	演劇
中村隆之	エメ・セゼールとの対話 植民地主義・アフリカ・シュルレアリスム	B205/14日 16:30~18:30	グループワーク
杉田このみ	失われた通学路—原発被災地になった故郷への旅	B202/14日 終日	映画
宮入恭平	文化と政治—音楽が世界を変えるとき	葵陵会館ラウンジ 14日 14:00~16:00	ライブ
浅野桂太	ウェイジック	葵陵会館 1F(I)	販売
本山謙二	「山谷 80's ~ふたりの Naoko ~新宿 90's」	B3F ホール13、14日終日	展示
本山謙二	〃	B205/13日 14:00~16:00	トーク・セッション
田沼幸子	映像と人類学のあたらしい関係—Anthro-Film Laboratory	B205/14日 14:00~16:00	グループワーク
東琢磨	どローカル探求	葵陵会館 1F(A)	?
中西けん	『無人販売業態の成立に関する考察とその応用』	葵陵会館 1F(L)	販売&展示
市野新一朗	街を歩く	葵陵会館 1F(D)	展示
清水友里子	方法としての伝統工芸品と「内発的発展」—地域文化とツーリズム	葵陵会館ラウンジ 13日 12:30~14:00 (昼休み)	展示・販売
川辺雄	RLL	葵陵会館 1F(G)	販売
太田明日香	「リボンヌ手芸部」ワークショップ&プリコラ交易所トーク「福祉施設は宝の山!? プリコラージュなものづくりの魅力と可能性」	葵陵会館ラウンジ 13日 14:00~16:00 B205/14日 10:30~12:30	グループワーク
〃	プリコラ交易所	葵陵会館 1F(C&J)	展示
水谷寛	原子力はどうに語られてきたか ~中学・高校の教科書分析を通して~	葵陵会館 1F(H)	展示
岩川ありさ	BL 短歌はこう萌える! 「制度に規定されない関係」をよむ	葵陵会館ラウンジ 14日 16:30~18:30	グループワーク
〃	BL 短歌はこう萌える! BL 短歌合同雑誌「共有結晶」頒布会	葵陵会館 1F(B&J)	販売
星楚恵	ゆんたく高江	葵陵会館 1F(E)	展示 販売
長畑洋/成瀬都香	たまたまディスカッション - オルタナティブな学びと生き方 -	B205/13日 16:30~18:30	グループワーク
有本健	ゆるカルスタカフェ	B206/14日 16:30~18:30	グループワーク



1) 『フタバから遠く離れて Nuclear Nation』(2012年、船橋淳監督、96分、日本語) [英語字幕付き / with English subtitles] 13日(土)16:30~18:06 / 14日(日)10:50~12:26

福島第一原子力発電所の事故によって、町ぐるみの避難を余儀なくされた福島県双葉町民たちの日常を克明に描いたドキュメンタリー。人びとの声の奥や表情の裏にまで届くようなカメラの視線が、震災後に故郷を離れて生き続けるという避けられない現実を見る者に突きつけてくる。

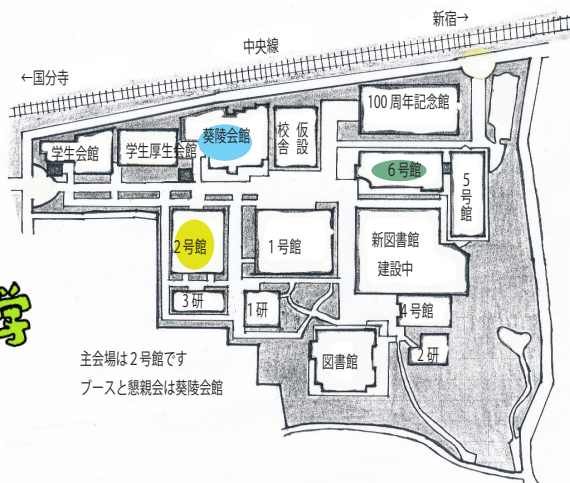
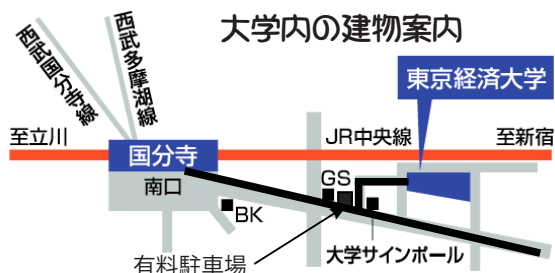
2) 『無人地帯 No Man's Zone』(2011年、藤原敏史監督、102分、日本語) [英語字幕付き / with English subtitles] 14日(日)13:00~14:42

福島原発の事故によって「無人地帯」となった「半径20km圏内」における地震と津波の被害、そして美しい田園地帯の情景を描くカメラ。やがてその視線は飯館村へと向かい、そこにとどまり続ける人びとの生きざまを映し出す。彼ら彼女らの肉声から、被災地に生きることの、突然の出来事によって故郷を追われることの「無念」が迫る。

3) 『A2』(2013年、イアン・トマス・アッシュ監督、71分、日本語と英語) [日本語字幕付き / with English subtitles] 14日(日)15:00~16:11
「A2」とは甲状腺に嚢胞や小塊ができたという「陽性反応」をしめす医学用語である。福島原発後の政治・官僚・経済・メディア・学会あげての「安全キャンペーン」から18か月後、被曝した子どもたちの甲状腺障害を切り口に、「裏切られた」人びとの怒りと苦悩をカメラは追う。2013年6月フランクフルトにおける日本コネクション・フィルム・フェスティバルでの日本映像賞受賞作品

「トーク・セッション」Representing Loss: The Ethics and Aesthetics of 'Fukushima' Related Documentary Films 14日(日)16:30~18:30
「フクシマ」関係の3本の映画上映に伴い、映画上映後の7月14日16時30分から映画上映会場と同じB201教室にて、監督の船橋淳さんと藤原敏史さんとイアン・トマス・アッシュさんをお迎えして、「フクシマを映像によって表象するとはどういうことか」をテーマにフリーディスカッションを行います。司会はニコラ・リスクリン(東京大学)、使用言語は英語と日本語ですが適宜通訳が付きます。どなたでもご自由に参加できますので、そちらにもおいでください。

東京経済大学への道順と 大学内の建物案内



* 13日(土)の昼食は大学生協が利用できます。14日(日)の昼食は各自持参してください。周辺で食事のできるところやコンビニには10分程度の歩きが必要です。
* 大学の駐車場には余裕がありませんので、自動車でお越しになる場合は、周辺の有料駐車場(右図)を使っていたくことになります。



会場：東京経済大学国分寺キャンパス (※キッズルームあり)
交通手段：JR 中央線、西武国分寺線・多摩湖線「国分寺駅」南口より徒歩12分
<http://www.tku.ac.jp/access/kokubunji/>
参加費 (2日間通し)：大学専任教員 5,000円 / 学生・一般 2,000円
主催：カルチュラル・タイフーン 2013 実行委員会
協賛：Association for Cultural Typhoon (カルチュラル・スタディーズ学会)
問い合わせ：info@cultural-typhoon.com
公式サイト：<http://cultural-typhoon.com/2013/>

「カルタイ・ニューズレター」
2013年6月27日発行
カルタイ 2013 事務局